

Kiko

ボン

〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル3F

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 西川ビル2F

気候ネットワーク

Tel:075-254-1011 / Fax:075-254-1012

Tel:03-3263-9210 / Fax:03-3263-9463

E-mail:kikonet@jca.apc.org http://www.jca.apc.org/kikonet/

E-mail:kikotko@jca.apc.org

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

<私たちはめざします>

(1)「抜け穴」をふさぎ、京都議定書の早期発効を！ (2)日本政府はまず6%削減できる国内対策を！ (3)政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！ (4)地球規模の公正のため、南北のNGOの連帯を！ (5)みんなで協力して温暖化防止を！

公式会合スタート

気候変動枠組条約の第12回補助機関会合(SBI/SBSTA12、以下SB12)が1週間の非公式会合に引き続いて12日よりドイツのボンで始まった。COP6前に2回予定されている補助機関会合は、着実な進展が必要な重要な会議である。これまでの様子をお伝えしよう。

【京都メカニズム】

先進国にとって京都メカニズムについてのSB12の目標は、142ページにも各国の主張をまとめた議長テキストを、

COP6で合意できる範囲のコンパクトなものに近づくこと。非公式会合の間にテキストの内容をブレイクストーミングするというCOP5と同じプロセスが繰り返され、テキストの一読を終了した。その後、公式会合が始まる前の土曜日には92ページに縮小された新たな議長ノートが準備された。これを元に交渉に入る予定だったが、サウジアラビアなどが途上国への適応措置や補償措置から先に交渉に入ることを強く主張。結局今日まで一般的なコメントを受ける以上の具体的な交渉には入っていない。明日14日からは項目ごとの議論が期待される

が、まだ本格的な交渉に入れるのが行方は見えない。

【吸収源】

5月のIPCCの特別報告書を受け、各締約国は8月1日までにデータの提出が求められている。この提出様式(3条3・4項)について10日合意がなされた。植林・再植林・森林伐採の定義などの議論を今後進めていくために、これらのデータが重要になる。日本は各国の状況に合わせて定義を選ぶことが出来ると主張したため、定義の意味が失われるとしてeco6月9日号で批判された。

多くの途上国はIPCC特別報告書を理解するのに時間がかると主張し、アフリカなどでワークショップを開催することを求めている。日本は今回改めて「吸収源は日本の批准のために重要だ」と発言し、最大限利用の姿勢を明らかにした。

【遵守】

1週目冒頭に遵守メカニズムに関する共同作業グループ(JWG)共同議長より配布された「共同議長の予備的見解(Preliminary thought)」への各国の意見提出をまとめた議長ペーパーが12日出された。このペーパーがCOP6に向けた今後の議論の方向性を示すものとなる。

今日のJWGではサウジのブロックを交わしながら、このペーパーを最初から一読する作業が開始されたが、一般規定を扱っただけで時間切れとなり、本格的な争点には踏み込めていない。

進む被害、遅れる途上国支援

COP6の成功に向けた重要な議題の一つに「気候変動による悪影響」と「対応措置による影響」(条約4条8・9項、議定書3条14項)がある。これは島国やアフリカなどの温暖化の悪影響を受ける国々への支援問題と、温暖化対策によって経済的なダメージを受ける産油国などへの補償問題の2つが絡まっている。議長のリードにより10日にCOP6での決議文案が出されているが、先進国と途上国間の交渉をどう進めるかはまだ合意に至っていない。12日の全体会合ではモザンビークなど自然災害の被害を受けた国々が深刻な状況を切実に訴え、緊急な対応を要求した。

今回は、AOSIS(小島嶼国)と産油国など途上国グループが、互いの利害の相違を超え、途上国支援の強化という共通の目的のために共同歩調をとっているのが特徴。先進国は本音としては、こちらの議論はほどほどにし、京都メカニズムについての議論を早く進めたいところだ。しかし、強まる切実な訴えに耳を貸さずに途上国を納得させることはできない。サウジアラビアの補償を求める動きは理屈に合わないものだが、それをけん制するあまり、緊急に必要とされる温暖化の被害への支援策の具体化を避けていてはCOP6を乗り切ることではできないだろう。

CAN インドネシア*CAN ヨーロッパ*CAN アフリカ*CAN オーストラリア*CAN 中央・東ヨーロッパ*DEUTSCHER NATURSCHUTZRING
地球の友*FERN*グリーンピース*気候ネットワーク*ペランギ・インドネシア*マレーシア気候変動グループ*ナショナル環境トラスト
オゾンアクション*シエラクラブ*US Public Interest Research Group*世界自然保護基金(WWF)

議定書交渉、道を外れて暗礁へ？

地球の友、グリーンピース、WWFを含む世界の環境 NGO のグループは、主要先進国は、温暖化防止のための唯一の国際合意・京都議定書の実効性を失わせようと動いていると警告している。

京都議定書は、温室効果ガスの排出を今後 10 年で 5%削減するということを約束したが、今それが、OECD 諸国に 10~20%の排出増加を容認するものに捻じ曲げられようとしている。環境 NGO は、ボンにおいて 2 週間の温暖化の交渉を行っている 120 ヶ国以上の国々のうち、最も罪深く問題のある国として特に、**アメリカ、カナダ、日本、オーストラリア、ニュージーランド**を挙げた。

「これらの国は一見、温暖化政策に取り組んでいるとの印象を作り出そうとしているが、実際、交渉の裏舞台においては、京都議定書から環境保全の側面を、実に組織的に根こそぎ取り去ろうとしている。」とグリーンピースのビル・ヘアーは話す。

環境 NGO は、温室効果ガスを削減するという目的に向かって、京都議定書を危険な温暖化を防ぐための最初のステップとするべく推し進めている。しかし環境 NGO のメンバーは、京都議定書の運用ルールにおける抜け穴（ループホール）によって、大量排出国である**アメリカ、日本、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド**が今後も排出を増加させ国内対策を回避出来てしまうという懸念を大きくしている。最大の抜け穴の一つは森林活動のルールについてである。特に**カナダ、日本、オーストラリア、アメリカ、ニュージーランド、スウェーデン、フランス**は、原生林を切り落とし、新規の商業植林に置き換えることでクレジットを得ることが出来てしまう制度を狙っている。

京都議定書は、他国でのプロジェクトを通じて排出枠を売買したり、温室効果ガスの排出を森林吸収で見込んだりすることによって、目標を達成することができるという莫大な柔軟性を先進国に与えている。今、先進国はこの柔軟性を最大限拡大しようとしている。「もしこれらの国々が方向転換を図らなければ、京都議定書は暗礁に乗り上げてしまうだろう」と WWF インターナショナルのジェニファー・モーガンは指摘する。

環境 NGO はまた、**カナダ、日本、フランス、オーストラリア、アメリカ、ニュージーランド、イギリス**に、京都議定書のクリーン開発メカニズム（CDM）の事業に原子力発電を認めることのないよう強く求めている。

「これらの国々は自国の利益を得ようとしており、危険な温暖化を防ぐための行動を起こす義務を果たしていない。ここまでひどい状況は今だかつてなく、私たちは、現実を一般市民に広く伝える責任があると感じている」と地球の友のロダ・ヴェルハイエンは言う。

「これらの政府が抜け穴に続く抜け穴を広げようとしているために、京都議定書はゆっくりと、しかし確実に壊されている。これでは先進国は、温暖化の元凶である化石燃料からの排出を削減せずにすることになる。」と話すのは、CAN ヨーロッパのカーラ・シュクターである。

「モザンビークの洪水など温暖化の兆候をまさに目の当たりにしているのに関わらず、主要な大排出国は、自国自身を守ることから逃げようとしている。」と気候ネットワークの浅岡美恵代表は警告している。

プレスリリース発表！

気候ネットワークは、地球の友、世界自然保護基金(WWF)、グリーンピース、そして世界各地の NGO と共に 13 日、上記のプレスリリースを発表した。

これは、温暖化交渉を妨げている主要先進国をターゲットにしたもので、日本の吸収源やメカニズム、遵守についての姿勢は世界の NGO の非難を受けている。

吸収源レポートを IPCC が報告

IPCC のワトソン議長は SBSTA 本会議で 5 月にまとめた吸収源の特別報告や、2001 年 9 月発表予定の第 3 次評価報告書の取りまとめ状況を報告をした。

COP7 のホスト国はモロッコか？

2001 年秋に開催予定の COP7 のホスト国にモロッコが名乗り出た。

Kiko SBI/SBSTA12 通信 No.1

2000 年 6 月 13 日発行
発行 / 編集 気候ネットワーク
浅岡美恵、鮎川ゆりか、小野寺ゆうり、川阪京子、平田仁子
会期中連絡先 Insel Hotel
TEL:49-228-3500320 (直通)
FAX:49-228-3500333